（一面より続く）

災害対策費で現計予算額が4億4834万円なのに対し、執行額は2億2415万円、不用額が2億2419万円でした。これは「防災行政無線（移動系）デジタル化整備事業」にかかわる事業のようですが、億単位の事業で現計予算に対し予算執行率が50％というのは適切とは言えません。聞くところによると入札は9月だったそうでありまして、2月議会できちんと補正すべきだったと思います。

制度の悪用、不正には厳正な対応を

また市内のあるアパートで、実際には住んでいないにもかかわらず、30ヵ月以上にわたり、2百万円以上のみなし仮設家賃の詐取と思われる情報が寄せられています。復旧復興財源の大半は被災地も含めた「復興特別所得税」（2・1％、25年間）や復興特別住民税（千円、10年間）でありますから、被災者に寄り添った温かい対応をすると同時に、制度の悪用あるいは不正が疑がわれる場合には、モラルハザードを招かないよう、県と市が一体となって厳正な対応をするよう求めるものであります。

上げすぎは明らか！国保会計2億6715万円の黒字

◆福祉医療分野では国民健康保険特別会計の事業費推計と国保税の設定に非常に大きな問題を感じております。

国民健康保険特別会計の平成25年度決算は2億6715万円の黒字となりました。黒字となったこと自体は安堵する反面、当局の推計を鵜呑みにしてはだめだということが改めて明らかになりました。

決算委員会でも指摘をいたしましたが、平成24年11月27日午後に全員協議会が開催されまして、市当局から議会に対しまして「25年度は1億135万円、26年度は1億3110万円、2年間で2億3254万円の赤字がでる見込みなので、25年度から国保税を12％引き上げさせて欲しい」という説明がありました。これに対し議会からは「平成22年度から24年度までに一般会計から3億8000万円のの繰り入れ約束も果たしていないのにとんでもない」との意見が続出し、市長は引き上げを見送ったわけであります。もし12％の引き上げをしていたら、25年度決算では3億7000万円、4億円近い黒字になったわけであります。

こうして平成22年度の推計以降、大幅な乖離が生じております。もちろん東日本大震災が発生し、推計が難しくなっている面もあると思います。しかし国保特別会計の推計誤りは直接国保税に影響いたします。推計が難しいというのなら、赤字になったらその年の分は一般会計で補填し、翌年分から引き上げるという実績にもとづいた国保税の算定方式に改めるべきであります。

さらに、国税税を上げすぎたことは明らかであり、引き下げも検討すべきです。

◆魅力の街づくりについてです。

先ほども触れましたように、25年度から南北大路の復元表示に本格的に取り組み始めることになりました。決算委員会では復元は18メートルか23メートルかが話題になりました。改めての回答で明確になりましたが、この復元計画は半世紀以上にわたる調査を踏まえて作成されたものでありまして、その成果を我々が改めて学ばないと、市民からのいろんな疑問にきちんと答えることができないし、事業推進にあたっても魂の入らないものになってしまうのではないか、と強く感じました。私自身も学びなおすつもりですが、ぜひみなさんにも呼びかけたいと思います。

図書館問題に現れた不透明・住民無視の市政運営

◆図書館問題に現れた非民主的な運営についてです。

25年度事業の最大の問題は、新図書館建設と運営をめぐって、教育委員会では生涯学習を司る教育委員会らしい検討はなされず、結論ありきのごり押し、非民主的な運営が行われたという点であります。

改めて言うまでもないと思いますが、我々は駅前開発の成功を願っておりますし、図書館の駅前移転も反対しておりません。図書館は図書館らしく扱うべきであるということを言っているわけであります。

第一に、CCCの関係者は「図書館は本のレンタル屋だ」（CCC社長）、「図書館にはいったこともない」「図書館の開設もツタヤの開設も同じ」（図書館カンパニー社長）などと問題発言を繰り返しておりましたが、市教委は、これらの発言が市の図書館方針と真逆であるにもかかわらずまともな検討もせず、公募もせずCCCに委ねることにいたしました。本当にCCCに図書館を委ねて良いのか、真面目な検討がなされたとは到底思えません。教育長は「CCCの幹部は文言としてはそういうことを言っているが、全体としてはそれではだめだと言っている」とごまかしの答弁を続けました。それが偽りであったことは、6議会での可決後、私の一般質問のなかで認めました。教育を司る部署の責任者自ら、こうした答弁をしていたのでは市の教育行政への信頼を失うということを厳しく指摘せざるを得ません。

第二に、この1年、極めて不透明・非民主的なやり方が横行いたしました。視察に行っても満足な復命書が書かれない、指定管理に向けCCCと協議をし（昨年7月末）詳しい復命書が提出されたが課長判断によりメモ扱いにされ議会に隠した、議会に説明した資料であっても「部外秘」にする、議会で様々問題を指摘しても真面目な検討をしない、住民からの意見は求めない、こういうひどいやり方が繰り返されました。復命書が4行しか書かれていなかった問題等について市長から「適切ではなかった」という発言もありましたが、市民から意見を求めなかったこと等については、「（新図書館を）実現させることが最優先。パブリックコメントをする余裕はない」（8／4朝日新聞）と全く反省がありません。こうした市長の態度について、マスコミからも「この対応には驚くとともに首をかしげざるをえない」（8／4朝日新聞）、「市民からパブリックコメントを求めることもしなかった…。運営について幅広く意見を聞くことが必要ではないか」（8／4読売新聞）等の批判がありました。当然です。

結局この新図書館問題の真相はどこにあったのか?。市長あるいは市長部局がCCCと蔦屋書店の出店と図書館の指定管理を約束し、その約束に合うように教育委員会は結論を出すよう求められた、そうとしか思えません。私はこれほど強引なやり方をするのだったら市長が全責任を負い、社会教育部門を市長部局に移してやるべきだったと思います。また唯々諾々と市長に従う市教委ではその存在意義が問われます。両者に猛省を促したいと思います。（次号に続く）